

Dell™ PowerEdge™ 500SC システム ユーザーズガイド

[システムの概要](#)

[システムの向き](#)

[正面パネルインジケータおよびその機能](#)

[背面パネルの機能](#)

[システムの機能](#)

[サポートするオペレーティングシステム](#)

[電源保護デバイス](#)

[その他のマニュアル](#)

[困ったときは](#)

[『Dell OpenManage™ Server Assistant CD』の使い方](#)

[『Dell OpenManage Server Assistant CD』の起動](#)

[CDの操作](#)

[システムのセットアップ](#)

[ユーティリティパーティション](#)

[管理タグ設定ユーティリティ](#)

[セットアップユーティリティの使い方](#)

[セットアップユーティリティの起動](#)

[セットアップオプション](#)

[システムパスワード機能の使い方](#)

[セットアップパスワード機能の使い方](#)

[パスワードを忘れたとき](#)

[仕様](#)

[I/Oポートおよびコネクタ](#)

[I/Oポートおよびコネクタ](#)

[シリアルおよびパラレルコネクタ](#)

[キーボードおよびマウスコネクタ](#)

[ビデオコネクタ](#)

[USBコネクタ](#)

[内蔵ネットワークインタフェースコントローラコネクタ](#)

[用語集](#)

[図](#)

[表](#)

メモ、注意、警告、および危険

 **メモ:** システムの操作上、知っておくと便利な情報が記載されています。

 **注意:** ハードウェアの破損またはデータの損失の可能性があることを示します。また、その問題を回避するための方法も示されています。

 **警告:** 問題を回避しないと、軽～中程度のけがを負う危険性があることを示します。

 **危険:** 問題を回避しないと、死亡または重傷を負う危険性があることを示します。

Model MMS

本書の内容は予告なしに変更されることがあります。

©2001 すべての著作権はDell Computer Corporationにあります。

Dell Computer Corporationからの書面による許可なしには、いかなる方法においても本書の複写、転載を禁じます。

本書に使用されている商標: Dell, PowerEdge, DELL のロゴ、および Dell OpenManage、は Dell Computer Corporation の商標です。Intel、および Pentium は Intel Corporation の登録商標です。Celeron は Intel Corporation の商標です。Microsoft、MS-DOS、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の登録商標です。Novell および NetWare は Novell, Inc. の登録商標です。

本書では、上記記載以外の商標や会社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、一切 Dell に所属するものではありません。

[目次ページに戻る](#)

仕様

Dell™ PowerEdge™ 500SC システム ユーザーズガイド

表A-1. 仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサのタイプ	Intel® Pentium® III マイクロプロセッサ (1 GHz以上、外部バス速度133 MHz、256 KB レベル2キャッシュ) または Intel Celeron™ マイクロプロセッサ (800 MHz、外部バス速度100MHz、128 KB レベル2キャッシュ)
フロントサイドバス速度	Pentium III: 133 MHz Celeron: 100 MHz
内部キャッシュ	Pentium III: 256 KB レベル 2 キャッシュ Celeron: 128 KB レベル 2 キャッシュ
拡張バス	
バスのタイプ	PCI
拡張スロット	64ビット、33/66 MHzスロット x 2 32ビット、33 MHzスロット x 3
メモリ	
アーキテクチャ	72ビットECC PC-133 SDRAM
メモリモジュールソケット	4
メモリモジュール容量	64 MB、128 MB、256 MB、512MB
最小RAM	64 MB
最大RAM	2 GB
ドライブ	
ディスクドライブ	3.5インチ、1.44 MBディスクドライブ
テープドライブ	オプションの内蔵テープドライブ
IDE デバイス	1インチの内蔵IDEハードドライブベイ x 3
CDドライブ	IDE CDドライブ x 1
ポートおよびコネクタ	
外部アクセス用:	
シリアル (DTE)	16550互換 9ピンコネクタ x 1
パラレル	25ピンコネクタ (双方向) x 1
ビデオ	15ピンコネクタ x 1
PS/2型キーボード	6ピンミニ DIN コネクタ
PS/2互換マウス	6ピンミニ DIN コネクタ
USB	USB準拠4ピンコネクタ x 2
NIC	内蔵NIC用のRJ45コネクタ
ビデオ	
ビデオのタイプ	ATI Rage XLビデオコントローラ、VGAコネクタ
ビデオメモリ	4 MB
電源	
DC電源装置	
ワット数	250 Wまたは330 W電源装置 x 1
電圧	90-240 V、47/63 Hz または 90-265 V、47/63 Hz
システムバッテリー	CR2032 3.0 Vリチウムコインセル
寸法	

高さ	43.7 cm
幅	20.3 cm
奥行き	44.5 cm
重さ	15.0 kg (最大構成)
環境	
温度:	
動作時	10~35°C
保管時	-40~65°C
相対湿度:	20%~80%(結露しないこと)
最大振動:	
動作時	1/2オクターブ/分において、3~200 Hzで0.25G
保管時	1/2オクターブ/分において、3~200 Hzで0.5G
最大振動:	
動作時	50.8 cm/秒の速度変化で左側および底面ハーフサインパルス
保管時	508.0 cm/秒の速度変化で23Gフェアードスクエアウェーブ
高度:	
動作時	-15.2 m~3,048 m1
保管時	-15.2 m~10,600m
1 35°Cで、最大動作高度は、914 mです。	
メモ: この表で使用された略語の正式名称は、「用語集」を参照してください。	

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

I/Oポートおよびコネクタ

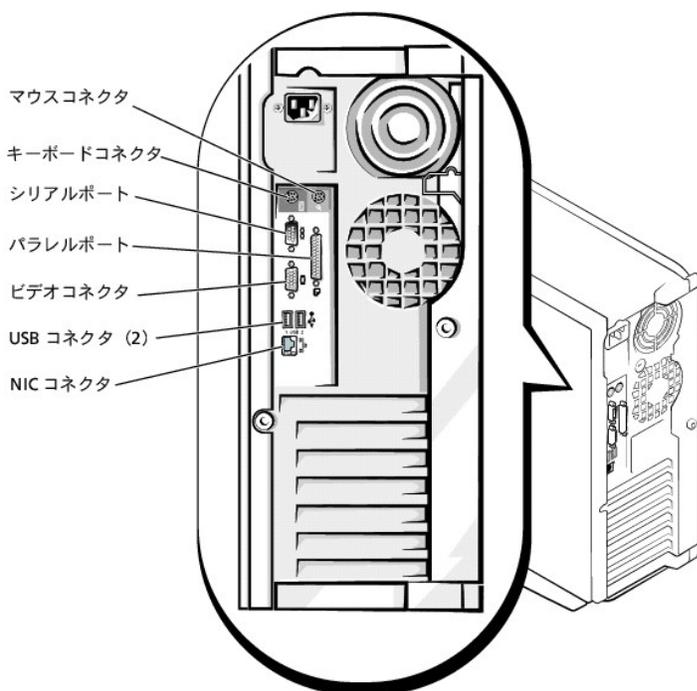
Dell™ PowerEdge™ 500SC システム ユーザーズガイド

- [I/Oポートおよびコネクタ](#)
- [シリアルおよびパラレルコネクタ](#)
- [キーボードおよびマウスコネクタ](#)
- [ビデオコネクタ](#)
- [USBコネクタ](#)
- [内蔵ネットワークインタフェースコントローラコネクタ](#)

I/Oポートおよびコネクタ

システムの背面パネルに設置されたI/Oポートおよびコネクタを介して、システムはキーボード、マウス、プリンタ、モニタなどの外付けデバイスと通信します。[図B-1](#)には、システムのI/Oポートおよびコネクタを示します。

図B-1. I/Oポートおよびコネクタ



シリアルおよびパラレルコネクタ

内蔵シリアルコネクタには、背面パネルに9ピンDサブコネクタが採用されています。このポートは、シリアルデータ転送方式(1本のデータ線を通して1ビットずつデータを送る転送方式)の外付けモデム、プリンタ、プロッタ、マウスなどのデバイスに対応します。

ほとんどのソフトウェアでは、COM(通信を意味する)という簡略用語が使われ、シリアルコネクタに対して番号(たとえば、COM1)が割り当てられます。システム内蔵シリアルコネクタに割り当てられているデフォルト番号はCOM1です。

内蔵パラレルコネクタには、システムの背面パネルに25ピンDサブミニチュアコネクタが採用されています。このI/Oポートは、パラレル方式(8つのデータビットまたは1バイトのデータを1本のケーブルに含まれる8本のデータ線を通して同時に送る転送方式)でデータを転送します。パラレルコネクタは主にプリンタ用に使われます。

ほとんどのソフトウェアでは、LPT(ラインプリンタを意味する)という簡略用語が使われ、パラレルコネクタに対して番号(たとえば、LPT1)が割り当てられます。このシステムの内蔵パラレルコネクタに割り当てられているデフォルト指定はLPT1です。

ポート割り当ては、たとえば、プリンタが接続されているポートを識別して、ソフトウェアがそのポートに出力を転送できるようにする手順を含む、ソフトウェアのインストール手順で使用します。(誤った割り当てをおこなうと、全く印刷できなかったり、適切に印刷できません。)

シリアルまたはパラレルコネクタを搭載する拡張カードの追加

システムは、シリアルコネクタを自動的に設定する機能を備えています。この機能では、内蔵ポートと同じ割り当てのシリアルコネクタを搭載する拡張カードを再設定せずに追加できます。拡張カードのシリアルコネクタがシステムによって検出されると、内蔵ポートは別の利用可能なポートに再マップ(再割り当て)されます。

新しいCOMポートおよび再マップされたCOMポートは、次のような同一のIRQ (ハードウェア割り込み)設定を共有します。

COM1、COM3: IRQ4 (共有設定)
COM2、COM4: IRQ3 (共有設定)

これらのCOMポートのI/Oアドレス設定は次のようになります。

COM1: 3F8h
COM2: 2F8h
COM3: 3E8h
COM4: 2E8h

たとえば、COM1のポートに内蔵モデムカードを追加すると、システムによって論理 COM1がモデムカードのアドレスとして認識されます。COM1に割り当てられていた内蔵シリアルコネクタは、COM1 IRQ設定を共有するCOM3に自動的に再マップされます。(1つのIRQ設定を2つのCOMポートが共有する場合、必要に応じていずれか1つのポートを使用できますが、同時に両方のポートを使用できない場合があります)。COM1およびCOM3に割り当てられているシリアルコネクタを搭載する一つまたは複数の拡張カードを取り付けると、その番号に相応する内蔵シリアルコネクタが無効になります。

COMポートの再マップが生じるカードを追加する前に、COMポート割り当て変更ソフトウェアが対応するかどうかを、ソフトウェアに付属するマニュアルで確認してください。

システムによる自動設定を避けるには、拡張カードのジャンパをリセットして、内蔵ポートのCOM番号を変更せずに、次の利用可能なCOM番号に割り当てられるようにすることができます。また、セットアップユーティリティを使って、内蔵ポートを無効にすることもできます。拡張カードのマニュアルを参照して、カードのデフォルトI/Oアドレスおよび利用可能なIRQ設定を確認してください。必要な場合は、ポートの再アドレスおよびIRQ設定の変更に関する手順も参照してください。

拡張カードを追加する場合に、パラレルコネクタがLPT1 (IRQ7、I/Oアドレス378h)に設定されているときは、セットアップユーティリティを起動し、内蔵パラレルコネクタを設定しなおしてください。

シリアルおよびパラレルコネクタに対してのオペレーティングシステムの処理方法に関する一般情報、およびコマンド手順の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

シリアルコネクタ

ハードウェアを再設定する場合は、シリアルコネクタのピン番号およびシグナル情報が必要となります。図B-2では、シリアルコネクタのピン番号、およびシリアルコネクタのピン割り当て、また表B-1では、インタフェースシグナルのリストと定義を示します。

図B-2. シリアルコネクタのピン番号



表B-1. シリアルコネクタのピン番号

ピン	信号	I/O	定義
1	DCD	I	データキャリア検出
2	SIN	I	シリアル入力
3	SOUT	O	シリアル出力
4	DTR	O	データ端末準備完了
5	GND	なし	シグナルアース
6	DSR	I	データセット準備完了
7	RTS	O	送信要求
8	CTS	I	送信クリア
9	RI	I	リングインジケータ
シールド	なし	なし	シャーシアース

パラレルコネクタ

ハードウェアを再設定する場合は、パラレルコネクタのピン番号およびシグナル情報が必要となります。図B-3ではパラレルコネクタのピン番号、およびパラレルコネクタのピン割り当て、また、表B-2インタフェースシグナルのリストと定義を示します。

図B-3. パラレルコネクタのピン番号



表B-2. パラレルコネクタピン番号の割り当て

ピン	信号	I/O	定義
1	STB#	I/O	ストローブ
2	PD0	I/O	プリンタデータビット0
3	PD1	I/O	プリンタデータビット1
4	PD2	I/O	プリンタデータビット2
5	PD3	I/O	プリンタデータビット3
6	PD4	I/O	プリンタデータビット4
7	PD5	I/O	プリンタデータビット5
8	PD6	I/O	プリンタデータビット6
9	PD7	I/O	プリンタデータビット7
10	ACK#	I	確認
11	BUSY	I	ビジー
12	PE	I	用紙エンド
13	SLCT	I	Select
14	AFD#	O	自動給紙
15	ERR#	I	エラー
16	INIT#	O	プリンタの初期化
17	SLIN#	O	セレクトイン
18-25	GND	なし	シグナルアース

キーボードおよびマウスコネクタ

システムはPS/2型キーボードを使用し、PS/2互換マウスをサポートしています。両方のデバイスのケーブルは、システムの背面パネルに設置されている6ピンDINコネクタに接続します。

マウスドライバソフトウェアは、マウスの動きを検出すると、IRQ12を割り当ててマイクロプロセッサにマウス優先割り込み処理を要求します。またドライバソフトウェアは、制御中のアプリケーションプログラムへマウスデータを送信します。

キーボードコネクタ

ハードウェアを再設定する場合は、キーボードコネクタのピン番号およびシグナル情報が必要となります。図B-4ではキーボードコネクタのピン番号、およびキーボードコネクタのピン割り当て、また、表B-3ではインタフェースシグナルのリストと定義を示します。

図B-4. キーボードコネクタのピン番号



表B-3. キーボードコネクタのピン番号の割り当て

ピン	信号	I/O	定義
1	KBDATA	I/O	キーボードデータ
2	NC	なし	接続なし
3	GND	なし	シグナルアース
4	FVcc	なし	ヒューズ供給電圧
5	KBCLK	I/O	キーボードクロック
6	NC	なし	接続なし
シエル	なし	なし	シャーシアース

マウスコネクタ

ハードウェアを再構成する場合は、マウスコネクタのピン番号および信号情報が必要となります。図B-5にはマウスコネクタのピン番号を示し、表B-4ではマウスコネクタのピン割り当ておよびインタフェースシグナルを定義します。

図B-5. マウスコネクタのピン番号



表B-4. マウスコネクタのピン番号の割り当て

ピン	信号	I/O	定義
1	MFDATA	I/O	マウスデータ
2	NC	なし	接続なし
3	GND	なし	シグナルアース
4	FVcc	なし	ヒューズ供給電圧
5	MFCLK	I/O	マウスクロック
6	NC	なし	接続なし
シエル	なし	なし	シャーシアース

ビデオコネクタ

このシステムでは、システム背面にある15ピンの高集積Dサブコネクタを使ってVGA(ビデオグラフィックアレイ)互換モニタを接続します。システム基板のビデオ回路は、モニタの赤色、緑色、青色の電子銃を操作するシグナルを同期化します。

メモ: ビデオカードを取り付けると、システムの内蔵ビデオサブシステムが自動的に無効になります。

ハードウェアを再構成する場合、ビデオコネクタのピン番号および信号情報が必要となります。図B-6にはビデオコネクタのピン番号を示し、表B-5ではビデオコネクタのピン割り当ておよびインタフェースシグナルを定義します。

図B-6. ビデオコネクタのピン番号



表B-5. ビデオコネクタのピン番号の割り当て

ピン	信号	I/O	定義
1	RED	O	赤色ビデオ
2	GREEN	O	緑色ビデオ
3	BLUE	O	青色ビデオ
4	NC	なし	接続なし
5-8、10	GND	なし	シグナルアース
9	VCC	なし	Vcc
11	NC	なし	接続なし
12	DDCデータアウト	O	モニタ検出データ
13	HSYNC	O	水平同期化
14	VSYNC	O	垂直同期化
15	DOCクロックアウト	O	モニタ検出クロック
シールド	なし	なし	シャーシアース

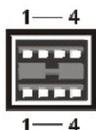
USBコネクタ

このシステムは、USB(ユニバーサルシリアルバス)互換デバイスを接続する2つの USBコネクタを装備しています。USBデバイスとは、通常マウス、プリンタ、キーボードおよびシステムスピーカなどの周辺機器です。

- **注意:** 1チャンネルにつき500ミリアンペアあるいは5Vを越える電流が流れるようなUSB デバイスやUSBデバイスの組み合わせを接続しないでください。この限界値を超えるデバイスを接続するとUSBポートがシャットダウンする場合があります。USBデバイスの最大電流値については、デバイスに付属するマニュアルを参照してください。

ハードウェアを再構成する場合は、USBコネクタのピン番号および信号情報が必要となります。[図B-7](#)ではUSBコネクタのピン番号を示し、[表B-6](#)ではUSBコネクタのピン割り当ておよびインタフェース信号を定義します。

図B-7. USBコネクタのピン番号



表B-6. USBコネクタのピン番号の割り当て

ピン	信号	I/O	定義
1	Vcc	なし	供給電圧
2	DATA	I	データ入力
3	+DATA	O	データ出力
4	GND	なし	シグナルアース

内蔵ネットワークインタフェースコントローラコネクタ

このシステムは、10/100 Mbpsの内蔵NIC（ネットワークインタフェースコントローラ）を搭載しています。NICは、ネットワーク拡張カードのすべての機能を提供し、10BASE-Tおよび100BASE-TX Ethernet標準をサポートします。

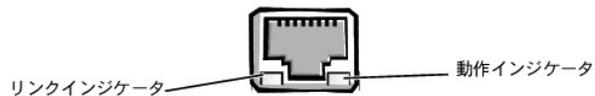
ネットワークケーブル要件

お使いのシステムのRJ45NICコネクタは、UTP（シールドなしのツイストペア）Ethernetケーブル用に設計されており、RJ45互換の標準プラグがついています。UTPケーブルの一方の端をNICコネクタの所定の位置にカチッと鳴るまで押し入れ、しっかりと接続します。ケーブルのもう一方の端はネットワーク設定に基づき、RJ45 ジャックウォールプレート、またはUTP集線装置、またはハブ上のRJ45ポートに接続します。10BASE-Tおよび100BASE-TXネットワークについては、次のケーブル制限を守ってください。

● **注意:** 回線妨害を防ぐために、音声およびデータ回線は別のシースで保護する必要があります。

- 1 10BASE-Tネットワークでは、Category 3またはそれ以上のワイヤおよびコネクタを使用してください。
- 1 100BASE-TXネットワークでは、Category 5以上のワイヤおよびコネクタを使用してください。
- 1 ケーブルの最大長（ワークステーションから集線装置まで）は、100 mです。
- 1 10BASE-Tネットワークでは、デジチェーン接続された集線装置の最大接続数は、1つのネットワークセグメントにつき4台です。

図B-8. NICコネクタ



[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

システムの概要

Dell™ PowerEdge™ 500SC システム ユーザーズガイド

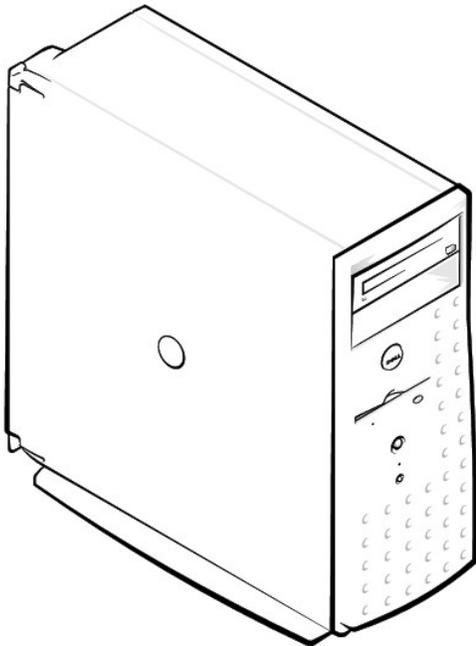
- [システムの向き](#)
- [正面パネルインジケータおよびその機能](#)
- [背面パネルの機能](#)
- [システムの機能](#)
- [サポートするオペレーティングシステム](#)
- [電源保護デバイス](#)
- [その他のマニュアル](#)
- [困ったときは](#)

本章では、主要なハードウェアおよびソフトウェアの機能、システムの正面パネルにあるインジケータ、および外付けデバイスのシステムへの接続方法についての説明します。テクニカルサポートを受ける方法についても説明します。

システムの向き

本書の手順を実行する場合、システムの位置や向きを、[図1-1](#)に示していますので確認してください。

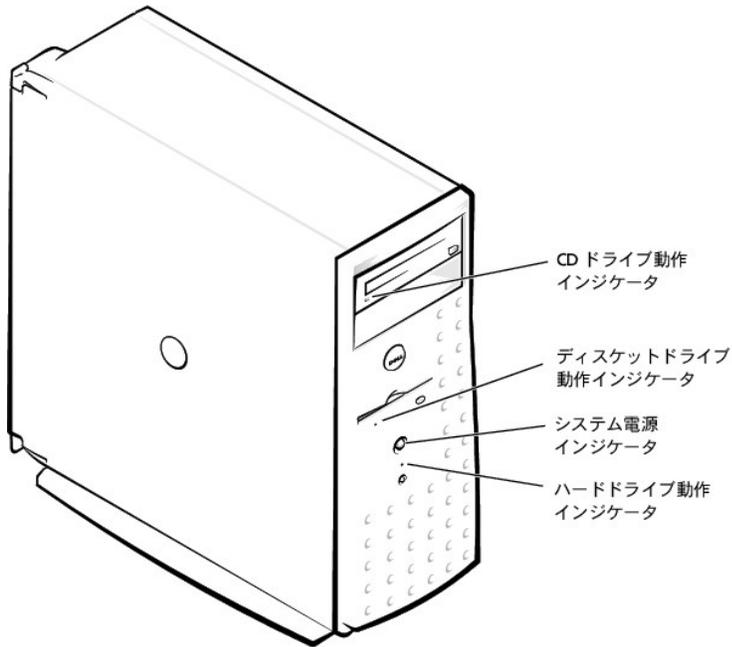
図1-1. システムの向き



正面パネルインジケータおよびその機能

[図1-2](#)には、正面パネルのインジケータを示します。システム電源インジケータ、とハードドライブ動作インジケータ、CDドライブ動作インジケータ、およびディスクドライブ動作インジケータが付いています。

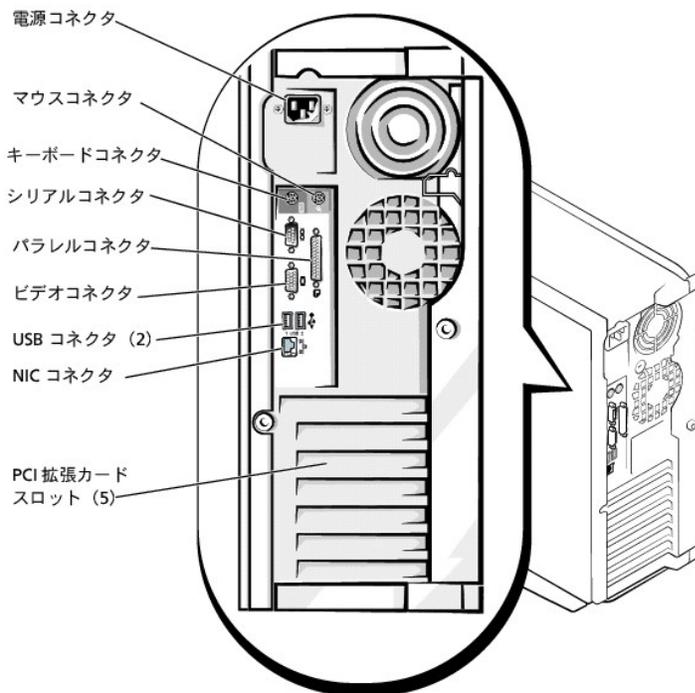
図1-2. 正面パネルの機能



背面パネルの機能

図1-3には、非冗長AC電源装置を組み込んだ、システムの背面パネルの機能を示します。

図1-3. 背面パネルの機能



システムに外付けデバイスを接続する場合、次のガイドラインに従ってください。

- 1 デバイスに固有の取り付けと設定手順がないか、デバイスに付属のマニュアルを確認します。たとえば、ほとんどのデバイスは特定コネクタに接続しないと正常に動作しません。また、通常外付けデバイスは、作動させる前に、デバイスドライバをインストールする必要があります。デバイス

ドライバは、通常オペレーティングシステムソフトウェアまたはデバイス本体に付属しています。

- 1 外付けデバイスは、システムがオフのときにのみ取り付けます。デバイスのマニュアルに特別の指示がない限り、システムの電源を入れる前に、外付けデバイスの電源を入れます。(システムがデバイスを認識しない場合、デバイスの電源を入れる前に、システムの電源を入れてみます。)

I/Oポートやコネクタを有効または無効にする方法、あるいは設定する方法については、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

システムの機能

- 1 Intel® Pentium® III マイクロプロセッサ(速度1 GHz以上、外部バス速度133 MHz、256 KB レベル2キャッシュ)
または
- 1 Intel Celeron™ III マイクロプロセッサ(速度800 MHz 以上、外部バス速度 100MHz、128 KB レベル2キャッシュ)
- 1 最小容量64 MBのシステムメモリは、システム基板上の4つのメモリモジュールソケットに64 MB、128 MB、256 MB、512 MBのPC-133 SDRAMメモリモジュールを取り付けることによって、2 GBまで増設できます。
- 1 1インチの内蔵IDEハードドライブを最大3台サポート
- 1 250-330 W 電源装置
- 1 48X CDドライブ
- 1 デュアルUSBポート
- 1 9ピンシリアルポート
- 1 25ピンパラレルポート
- 1 PS/2互換マウスおよびキーボードポート
- 1 組み込み型10/100 Mb Ethernet
- 1 オプションのIDE テープバックアップユニット、DVDドライブ、または内蔵テープドライブ

システム基板には、次の機能が内蔵されています。

- 1 システム基板上にPCI スロットが5つ。2つが64ビット、33または66 MHzスロット、3つが32ビット、33-MHzスロット。
- 1 ATI RAGE XLビデオコントローラ搭載の内蔵VGA互換ビデオサブシステム。このビデオサブシステムには、4 MB のSDRMビデオメモリが組み込まれています(アップグレード不可)。最大解像度は、1600 x 1200 x 65K色です(非インタレース)。640 x 480ピクセル、800 x 600ピクセル、1024 x 758ピクセル、および 1280 x 1024ピクセル解像度において、トゥルーカラーが利用可能です。
- 1 デュアルIDE コントローラ。
- 1 内蔵Intel 10/100 NICは、Ethernetインタフェースを提供します。
- 1 重要なシステム電圧と温度だけでなく、システムファンの動作も監視するサーバ管理回路。サーバ管理回路は、サーバ管理ソフトウェアと連動します。

標準のシステムには、ディスクドライブとIDEハードドライブが搭載されています。フロントベイにIDE CDドライブも搭載されています。

お使いのシステムには、次のソフトウェアが付属しています。

- 1 システム設定情報をすばやく表示したり変更できる、セットアップユーティリティ。このプログラムについての詳細は、「セットアップユーティリティの使い方」を参照してください。
- 1 セットアップユーティリティから利用可能なユーザーパスワードおよびスーパーバイザパスワードを含む、強化されたセキュリティ機能。
- 1 システムのコンポーネントおよびデバイス进行评估するための診断プログラム。システムの診断プログラムの使用方法についての情報は、『インストール&トラブルシューティング』の「システム診断プログラムの実行」を参照してください。

サポートするオペレーティングシステム

Dellではお使いのシステム上で、次のオペレーティングシステムの使用をサポートしています。

- 1 Microsoft® Windows NT® 4.0 Server
- 1 Microsoft Windows® 2000 Server
- 1 Red Hat Linux 7.x

電源保護デバイス

電圧変動、過渡電流、停電などの電力障害からシステムを保護する多くのデバイスが利用できます。次項では、これらのデバイスのうちのいくつかについて説明しています。

サージプロテクタ

サージプロテクタにはいろいろな種類があり、通常、保護レベルはサージプロテクタの価格に対応しています。サージプロテクタは、雷雨中などに発生する電圧変動が、コンセントを介してシステムに侵入するのを防ぎます。しかし、サージプロテクタは電圧レベルが通常のACライン電圧レベルより20%以上低下した時に起きる電圧低下に対する保護は提供しません。

ラインコンディショナ

ラインコンディショナは、サージプロテクタよりも過電圧に対してより強力に保護します。ラインコンディショナはシステムのAC電源電圧を一定に保ち、電圧低下からも保護します。このより強力な保護機能があるため、ラインコンディショナはサージプロテクタに比べて数万円高くなっています。しかし、これらのデバイスは完全な停電からはコンピュータを保護できません。

無停電電源装置

UPS(無停電電源装置)システムは、各種電源障害に対してもっとも完全な保護を提供しています。これは、AC電源が停電した時に、バッテリーから電源を供給してシステムを動作し続けるからです。AC電源が利用可能な間にバッテリーを充電し、AC電源が停電したらUPSによって15分から1時間の限られた時間バッテリーがシステムに電源を供給します。

UPSシステムの価格は数万円から数十万円します。価格の高いUPSを使うとAC電源が停電した時に大きなシステムをより長時間稼働できます。バッテリーで5分間しか電源を供給できないUPSでは、システムの通常のシャットダウンしかできず、続けての操作はできません。UPSシステムはすべてサージプロテクタといっしょに使用してください。UPSシステムはULの安全基準に合格しているものをお使いください。

その他のマニュアル

この『ユーザーズガイド』以外にも、次のマニュアルがシステムに付属しています。

- 1 システムをセットアップする、一般的な手順を記載した『システムのセットアップ』シート
- 1 『サーバ管理』マニュアルでは、各適用製品のサーバ管理ソフトウェア(ソフトウェアが発行するアラートメッセージを含む)について説明しています。
- 1 お使いのシステムの『インストール&トラブルシューティング』では、システムのアップグレードやトラブルシューティングの方法を説明しています。
- 1 『システム情報ガイド』では、安全および認可機関に関する情報を、また、『サービス & サポートのご案内』では保証に関する情報を記載しています。

また、必要に応じて次のマニュアルが付属している場合があります。

 **メモ:** システムまたはソフトウェアの変更について説明したマニュアルアップデートがシステムに同梱されていることがあります。最新の情報が含まれていることがよくあるので、他のマニュアルの前にこのアップデートマニュアルをお読みください。

- 1 オペレーティングシステムソフトウェアをシステムといっしょに購入された場合、オペレーティングシステムのマニュアルが付属しています。オペレーティングシステムソフトウェアの使い方や、再インストールが必要になった場合の設定方法などが記載されています。
 - 1 システムとは別に購入した各種オプションのマニュアル。ご使用のシステムに、これらのオプションを取り付け、設定するために必要な情報が記載されています。オプションのインストール手順については、この『ユーザーズガイド』に記載されています。
 - 1 技術情報ファイル(readmeとも呼ばれます)。システムのハードドライブには、マニュアルの印刷後にシステムに追加された変更や、技術者および専門知識をお持ちのユーザーを対象とする、テクニカルリファレンスが記載されたreadmeファイルがインストールされていることがあります。
-

困ったときは

本書で説明されている手順がわからない場合や、システムが思った通りに動作しない場合に備えて、各種ツールを準備しています。ヘルプツールについての詳細は、『インストール&トラブルシューティング』にある「困ったときは」を参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

『Dell OpenManage™ Server AssistantCD』の使い方

Dell™ PowerEdge™ 500SC システム ユーザーズガイド

- [『Dell OpenManage Server Assistant CD』の起動](#)
- [CDの操作](#)
- [システムのセットアップ](#)
- [ユーティリティパーティション](#)
- [管理タグ設定ユーティリティ](#)

『Dell OpenManage Server Assistant CD』には、ユーティリティ、診断プログラム、ドライバなどお使いのシステムを最適に設定するために役立つアイテムが含まれています。Dell OpenManage Server Assistant CDで利用できるいくつかの機能は、ハードドライブにインストールされている起動ユーティリティパーティションでも利用できます。この章では、Dell OpenManage Server Assistant CDの使い方を説明します。また、ユーティリティパーティションおよびそのオプション、パーティションの再インストール手順(必要な場合)についても説明しています。

『Dell OpenManage Server Assistant CD』の起動

Dell OpenManage Server Assistantアプリケーションプログラムには、2通りの操作モードがあります。システムを設定したりオペレーティングシステムをインストールするためのセットアップモード、およびディスクを作成したり情報を表示するためのサービスモードです。マニュアルは、『Online Documentation CD』から入手できます。

セットアップモードおよびサービスモード共に、Dell OpenManage Server Assistantメイン画面には、画面テキストを表示する言語を、サポートされている言語のなかから選択できるオプションがあります。いつでもメインメニューから言語を選択できます。

セットアップモード

システムをセットアップし、オペレーティングシステムをインストールするには、『Dell OpenManage Server Assistant CD』をCDドライブに挿入し、システムの電源を入れるか、再起動します。Dell OpenManage Server Assistantメイン画面が表示されます。

CDドライブが起動しない場合、セットアップユーティリティの起動順序のオプションで、CDドライブが指定されているか確認します。詳細については、『[セットアップユーティリティの使い方](#)』の『[Boot Sequence画面](#)』を参照してください。

サービスモード

Microsoft® Internet Explorer 4.0(またはそれ以降)が実行されているシステムでは、システムディスクを作成したり、情報を表示させることができます。Microsoft Windows NT®またはWindows® 2000 Serverオペレーティングシステムを使用しているシステムのCDドライブにCDを挿入する場合、ブラウザソフトウェアが自動的に起動し、Dell OpenManage Server Assistantメインページが表示されます。

CDの操作

『Dell OpenManage Server Assistant CD』では、標準のWebブラウザインタフェースを使用します。CDを操作するには、各種アイコンやテキストのハイパーリンク上でマウスをクリックします。

Backアイコンをクリックすると、前の画面に戻ります。Exitアイコンをクリックすると、プログラムを終了します。プログラムを終了すると、システムが再起動して標準のオペレーティングシステム起動パーティションになります。

システムのセットアップ

オペレーティングシステムがブリンストールされていないシステムを購入される場合、または後日オペレーティングシステムを再インストールする場合は、Server Setup オプションを使って、システムを構成したり、オペレーティングシステムをインストールしてください。

サーバセットアップモード

オペレーティングシステムのインストールおよび再インストールを含む、ほとんどの場面で、Server Setupプログラムを使用します。『Dell OpenManage Server Assistant CD』では、オペレーティングシステムのセットアップや設定のプロセスが順序だてて説明されます。画面上に、ドライブで使用するオペレーティングシステムの選択と、オペレーティングシステムのインストール方法が順を追って表示されます。

サーバセットアッププログラムを起動するには、次の手順を実行します。

1. 画面の上部にあるSETUPアイコンをクリックします。
2. Server Setupをクリックします。

サーバセットアッププログラムを起動した後、画面の指示に従って、インストールおよび設定を完了します。Server Setupを使用して、以下の作業をお

こなうことができます。

- 1 RAIDコントローラの設定 (適用できる場合)
- 1 オペレーティングシステムとハードドライブ情報の入力
- 1 オペレーティングシステム設定の入力
- 1 オペレーティングシステムのインストール

ユーティリティパーティション

ユーティリティパーティションはハードドライブ上の起動パーティションであり、システム設定や診断ユーティリティを含んでいます。実装されるとパーティションが起動し、パーティションのユーティリティの実行環境が用意されます。ユーティリティパーティションが起動しない場合は、非MS-DOSパーティションとして指定されます。

メモ: ユーティリティパーティションで用意されているMS-DOS機能は限られており、汎用のMS-DOSパーティションとして使うことはできません。

ユーティリティパーティションを起動するには、システムの電源を入れるか、再起動します。POST (電源投入時の自己診断)の実行中に、次のメッセージが表示されます。

<F10> = Utility Mode

ユーティリティパーティションでは、テキストベースのインタフェースによってパーティションのユーティリティを実行します。矢印キーを使ってオプションを強調表示し<Enter>を押しても、また、メニューオプション番号を入力しても、メニューオプションを選択できます。ユーティリティパーティションを終了するには、Main Menuで<Esc>を押します。セットアップモードからユーティリティを終了すると、システムは標準のオペレーティングシステム起動パーティションに再起動します。

表2-1 では、『Dell OpenManage Server Assistant CD』がCDドライブに挿入されていない場合でも、ユーティリティパーティションメニューに表示されるサンプル一覧およびオプションの説明が示されています。システム画面に表示されるオプションは、設定によって異なる場合があります。

表2-1. ユーティリティパーティションのMain Menuオプション

オプション	説明
Run System Diagnostics	システムハードウェアの診断プログラムを実行します。
Run RAID Configuration Utility	RAIDコントローラカードが取り付けられている場合、RAIDコントローラ設定ユーティリティが実行されます。
メモ: システムの画面に表示されるオプションはシステム設定によって異なり、ここに挙げたすべての項目が含まれていない場合もあります。この表で使用されている略語の正式名については、「用語集」を参照してください。	

システム診断プログラムの実行

Utility PartitionメニューからRun System Diagnosticsを選択します。ディスクから診断プログラムを実行するには、『Dell OpenManage Server Assistant CD』から診断プログラムディスクを作成します。

システムハードウェアの診断プログラムについては、『インストール&トラブルシューティング』の「システム診断プログラムの実行」で説明しています。

管理タグ設定ユーティリティ

管理タグ設定ユーティリティを使うと、システムに対して管理タグ番号を割り当てることができます。

メモ: 管理タグ設定ユーティリティが動作するのは、MS-DOSが実行されているシステムに限られます。

管理タグ設定ユーティリティの使い方

管理タグ設定ユーティリティ用のディスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. ディスクをまだ作成していない場合は、Create Diskettesオプションを使って、『Dell OpenManage Server AssistantCD』からAsset Tag Utilities With CD-ROMディスクを作成します。
2. ディスクドライブにディスクを挿入し、システムを再起動します。

メモ: 管理タグ設定ユーティリティディスクにはCDドライブが含まれ、ディスクから起動したときに、このドライブによってCDドライブにアクセスすることができます。

管理タグ番号の割り当ておよび削除

管理タグ番号には、最大10文字まで使えます。スペースを除く、すべての文字の組み合わせが有効です。

管理タグ番号を割り当てる、または変更するときは、以下の手順を実行します。

1. 「[管理タグ設定ユーティリティの使い方](#)」の手順を実行します。
2. `asset` とスペースを入力し、その後に新しい番号を入力します。

例えば、次のコマンドを入力します。

```
asset 1234567890
```

3. <Enter>を押します。
4. 管理タグ番号の確認を要求するメッセージが表示されたら、`y`を入力し、<Enter>を押します。

新しい、または変更された管理タグ番号およびサービスタグ番号がシステムで表示されます。

新しい番号を割り当てずに管理タグ番号を削除するには、`asset /d`と入力し、<Enter>を押します。

[表2-2](#)では、管理タグ設定ユーティリティで使用できるコマンドラインのオプションを表示しています。これらのオプションを使うには、`asset` およびスペースを入力し、その後にオプションを続けて入力します。

表2-2. 管理タグコマンドラインオプション

管理タグオプション	説明
<code>/d</code>	管理タグ番号を削除します。
<code>/?</code>	管理タグ設定ユーティリティのヘルプ画面を表示します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

セットアップユーティリティの使い方

Dell™ PowerEdge™ 500SC システム ユーザーズガイド

- [セットアップユーティリティの起動](#)
- [セットアップオプション](#)
- [システムパスワード機能の使い方](#)
- [セットアップパスワード機能の使い方](#)
- [パスワードを忘れたとき](#)

システムの電源を入れるごとに、システム基板のNVRAMに格納されているシステム設定情報のハードウェアリストに対して、現在コンピュータに取り付けられているハードウェアが比較されます。システムによって不一致が検出されると、不適切な設定があることを知らせるエラーメッセージが生成されます。次に、設定を修正するために、セットアップユーティリティを起動するように尋ねるプロンプトが表示されます。

セットアップユーティリティは次のような場合に使用できます。

- 1 システムに対してハードウェアの追加、変更、または取り外しを実行した後に、システム設定情報を変更する場合
- 1 ユーザーが選択可能な、システムの時刻または日付の変更など、ユーザーが選択可能な項目を設定または変更する場合
- 1 システムの内蔵デバイスを有効にしたり、無効にする場合

システムのセットアップが終了したら、システム設定情報およびオプション設定を理解するために、セットアップユーティリティを実行してください。Dellでは、参照用にセットアップ画面を印刷するか(Print Screen>キーを押す)、その情報を記録することをお勧めしています。

セットアップユーティリティを使用する前に、システムに接続されているディスクドライブおよびハードドライブのタイプを確認してください。この情報が不明な場合は、システムに付属する製造テスト報告(Manufacturing Test Report)を参照してください。Dell [アクセサリフォルダの製造テスト報告\(Manufacturing Test Report\)](#)にアクセスできます。

セットアップユーティリティの起動

セットアップユーティリティを次のように起動します。

1. システムの電源を入れます。
システムが既に動作している場合、一度電源を切ってから再起動します。

2. 次のメッセージが表示されたら、素早く<F2>を押します。

Press <F2> for System Setup

ここで時間を置きすぎて、オペレーティングシステムがメモリにロードされ始めた場合は、システムのロード処理を完了させて電源を切りもう一度実行します。

 **メモ:** 適切なシステムシャットダウン方法については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

特定のエラーメッセージに対応することによっても、セットアップユーティリティを起動できます。「[エラーメッセージへの対応](#)」を参照してください。

 **メモ:** セットアップユーティリティの使用法のヘルプを見るには、<F1>を押します。

エラーメッセージへの対応

システムの起動中にエラーメッセージが表示された場合は、メッセージをメモしてください。次に、セットアップユーティリティを起動する前に、『インストール&トラブルシューティング』の「システムビープコード」および「システムメッセージ」を参照してメッセージの意味やエラー修正の方法を調べてください。(メモリアップグレードを取り付けた後で最初にシステムを起動すると、通常エラーメッセージが表示されます。この場合は「システムビープコード」および「システムメッセージ」を参照する必要はありません。代わりに『インストール&トラブルシューティング』の「メモリの追加」のメモリアップグレードの実行手順に従ってください。)

<F1>を押して続行するか、または<F2>を押してセットアップユーティリティを実行するかのどちらかを選択できる場合は、<F2>を押してください。

セットアップユーティリティの使い方

[表3-1](#) では、セットアップユーティリティの情報を表示および変更したり、プログラムを終了するときに使うキーのリストを示します。

表3-1. セットアップユーティリティナビゲーションキー

--

キー	処置
<Shift>または <Tab>	次のフィールドへ移動します。
上矢印	前のフィールドへ移動します。
左右矢印キー	フィールドの設定を順に切り替えます。多くのフィールドでは適切な値を直接入力することもできます。
<Esc>	変更を行った場合、セットアップユーティリティを終了してシステムを再起動してください。 ほとんどのオプションでは、変更内容が自動的に記録されますが、それが実際に有効になるのはシステムの再起動後からです。変更した直後に有効になるオプションもあります(ヘルプエリアを参照)。

セットアップオプション

次の項では、セットアップ画面上の各オプションの概要について説明します。

メイン画面

セットアップユーティリティが実行されると、メインプログラム画面が表示されます(図3-1参照)。

図3-1. メインセットアップ画面

```

Dell Computer Corporation (www.dell.com) - PowerEdge 500SC
-----
Intel Pentium III Processor: 1 GHz          BIOS Version: XXXX
Level 2 Cache: 256 KB Integrated          Service Tag : XXXXX

System Time ..... 10:11:12
System Date ..... Thu April 19, 2001

Diskette Drive A: ..... 3.5 inch, 1.44 MB

System Memory ..... 2048 MB SDRAM
Video Memory ..... 4 MB SDRAM
CPU Information ..... <ENTER>

Primary Drive 0..... Hard Drive
Primary Drive 1..... OFF
Secondary Drive 0..... CD Rom
Secondary Drive 1..... OFF

Boot Sequence ..... <ENTER>
Hard-Disk Drive Sequence ..... <ENTER>

Integrated Devices ..... <ENTER>
PCI IRQ Assignment ..... <ENTER>

↑↓ to select | SP&ACE,+,- to change | ESC to exit | F1=HELP

```

次のオプションまたは情報領域が、メインセットアップ画面上に表示されます。

- 1 System Time — システムの内部時計の時刻をリセットします。
- 1 System Date — システムの内蔵カレンダーの日付をリセットします。
- 1 Diskette Drive A: — システムに取り付けられているディスクドライブの種類を識別します。
- 1 System Memory — システムメモリの容量を表示します。このオプションには、ユーザーが選択できる設定はありません。
- 1 Video Memory — ビデオメモリの容量を表示します。このオプションには、ユーザーが選択できる設定はありません。
- 1 CPU Information — システムのバスおよびマイクロプロセッサに関連した情報が表示されます。この画面には、ユーザーが選択できる設定はありません。
- 1 Primary Drive 0 — プライマリドライブとしてIDEチャネル0に取り付けられたディスクのタイプを識別します。
- 1 Primary Drive 1 — プライマリドライブとしてIDEチャネル1に取り付けられたディスクのタイプを識別します。
- 1 Secondary Drive 0 — セカンドドライブとしてIDEチャネル0に取り付けられたディスクのタイプを識別します。
- 1 Secondary Drive 1 — セカンドドライブとしてIDEチャネル1に取り付けられたディスクのタイプを識別します。
- 1 Boot Sequence — 本章で後述する、Boot Sequence画面を表示します。
- 1 Hard-Disk Drive Sequence — 本章で後述する、Hard-Disk Drive Sequence 画面を表示します。

- 1 Integrated Devices — 本章で後述する、Integrated Devices画面を表示します。
- 1 PCI IRQ Assignment — IRQを必要とする搭載済み拡張カードだけでなく、PCIバスの内蔵デバイス3台のそれぞれに割り当てられているIRQを変更できる画面を表示します。
- 1 System Security — システムパスワードとセットアップパスワード機能を設定できる画面を表示します。「[システムパスワード機能の使い方](#)」および「[セットアップパスワード機能の使い方](#)」を参照してください。
- 1 Keyboard Num Lock — 101あるいは102キーのキーボードで(84キーのキーボードには適用されません)Numlockモードが有効な状態でシステムが起動するかを決定します。
- 1 Report Keyboard Error — POST中に検出されたキーボードエラーの報告を有効または無効にします。
このオプションは、固定装備のキーボードを備えていないサーバやホストシステムをセルフ起動に設定する場合に適用すると便利です。こうした条件では、Do Not Reportを選択すると、POST実行中に検出されたキーボードまたはキーボードコントローラに関連するエラーのすべてのメッセージが省略されます。キーボードが取り付けられている場合、この設定はキーボード自体の処理に対する影響はありません。
- 1 Asset Tag — 管理タグコードが指定されている場合、ユーザーがシステムに対して指定可能な管理タグコードを表示します。10文字までの管理タグ番号をNVRAMに付けるには、「[Dell OpenManage Server Assistant CDの使い方](#)」の「[管理タグ設定ユーティリティ](#)」の手順に従います。

Boot Sequence画面

Boot Sequence画面オプションは、システムが起動時にロードする必要があるファイルを探す順序を決定します。利用可能なオプションは、ディスクドライブ、CDドライブ、およびハードドライブです。デバイスを選択してスペースバーを押し、そのデバイスを有効あるいは無効にできます。デバイスを検索する順序を変更するには、<+>および<->を使用します。

Hard-Disk Drive Sequence画面

Boot Sequence画面オプションは、起動時にロードする必要があるファイルをシステムが探すハードドライブの順序を決定します。お使いのシステムに取り付けられているハードドライブによって、選択肢が異なります。デバイスを選択してスペースバーを押し、そのデバイスを有効あるいは無効にできます。デバイスを検索する順序を変更するには、<+>および<->を使用します。

Integrated Devices画面

システム基板上の次のデバイスはこの画面から設定します。

- 1 Network Interface Controller — システムの内蔵NICを有効にするかどうかを決定します。変更は再起動の後に有効になります。
- 1 NIC MAC Address — 内蔵NICが使用するMACアドレスを表示します。このフィールドには、ユーザーが選択できる設定はありません。
- 1 Mouse Controller — システムのマウスコントローラを有効あるいは無効にします。マウスコントローラを無効にすると、拡張カードがIRQ12を使用できるようになります。
- 1 Serial Port 1 — システムの内蔵シリアルポートを設定します。これらのオプションは、自動的にポートを設定するAuto(デフォルト)、特定の指定先、またはポートを無効にするOffに設定することができます。
シリアルポートをAutoに設定し、同じ指定機能に設定されているポートを含む拡張カードを追加した場合、システムは、内蔵ポートを次の利用可能な同じIRQ設定を共有しているポート指定に、自動的に再マップします。
- 1 Parallel Port — システムの内蔵パラレルポートを設定します。
- 1 Parallel Port Mode — システム内蔵のパラレルポートを、AT互換(片方向)ポートとして使用するか、またはPS/2互換(双方向)ポートとして使用するかを設定できます。使用するモードを決定するときは、シリアルポートに接続された周辺機器に付属のマニュアルを参照してください。
- 1 USB Controller — システムのUSBポートを有効または無効にします。USBポートを無効にすると、システムリソースをその他のデバイスで使用できるようになります。
- 1 IDE Interface — システムのIDEインタフェースを有効あるいは無効にします。
- 1 Diskette Controller — システムのディスクドライブコントローラを有効あるいは無効にします。Auto(デフォルト)を選択すると、拡張スロットに取り付けられているコントローラカードを使用する必要がある場合、システムはコントローラをオフにします。

System Security画面

System Security画面を通して次のセキュリティ機能を設定できます。

- 1 Password Status — Setup PasswordをEnabledに設定すると、システムパスワードをシステム起動時に変更または無効にできなくなります。
システムパスワードをロックするには、まずSetup Passwordオプションでセットアップパスワードを割り当て、次にPassword StatusオプションをLockedに変更します。この状態では、System Passwordオプションを使ってシステムパスワードを変更したり、また<Ctrl><Enter>を押して、システム起動時にパスワードを無効することができません。
システムパスワードのロックを解除するには、まずSetup Passwordオプションでセットアップパスワードを入力して、Password StatusオプションをUnlockedに変更する必要があります。この状態では、<Ctrl><Enter>を押してシステム起動時にシステムパスワードを無効にしたり、System Passwordオプションを使って変更できます。

- 1 System Password — システムのパスワードセキュリティ機能のステータスが表示され、新規パスワードの割り当ておよび検証を実行できます。

 **メモ:** システムパスワードの設定、および既存のシステムパスワードの使用または変更に関する手順については、「[システムパスワード機能の使い方](#)」を参照してください。忘れたシステムパスワードを無効にする方法については、「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照してください。

- 1 Setup Password — システムパスワード機能を使ってシステムへのアクセスを制限するのと同じ要領で、システムのセットアップユーティリティへのアクセスを制限できます。

 **メモ:** セットアップパスワードの設定、および既存のセットアップパスワードの使用または変更に関する手順については、「[セットアップパスワード機能の使い方](#)」を参照してください。忘れてしまったセットアップパスワードを無効にする方法については、「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照してください。

- 1 Power Button Override — Power Button OverrideがDisabledに設定されている場合に、Microsoft® Windows® 2000 またはAPCI仕様に対応したその他のオペレーティングシステムを実行していれば、電源ボタンを使用して、システムをオフにしたりシャットダウンすることができます。Power Button OverrideがEnabledに設定されている場合は、システムをオフにしたり、その他のシステムイベントを実行するのに、電源ボタンを使用することはできません。

Exit画面

<Esc>を押してシステムセットアッププログラムを終了すると、Exit画面が次の選択肢を表示します。

- 1 Save Changes and Exit (変更を保存して終了)
- 1 Discard Changes and Exit (変更を保存せずに終了)
- 1 Return to Setup (セットアップへ戻る)

システムパスワード機能の使い方

 **注意:** パスワード機能は、システム内のデータに対して基本的なセキュリティを提供しますが、決して万全ではありません。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご自身でご用意ください。

ご使用のシステムは、出荷時にはシステムパスワードが設定されていません。システムのセキュリティが必要な場合、必ずシステムパスワード保護機能を有効にした状態でシステムを操作してください。

セットアップユーティリティを使用すると、いつでもパスワードを設定できます。システムパスワードを割り当てると、パスワードを知っているユーザーだけがシステムを完全に使用できるようになります。

System PasswordオプションがEnabledに設定されていると、システムパスワード要求のプロンプトがシステムの起動直後に表示されます。

現在のシステムパスワードを変更するには、そのパスワードを事前にお知らせする必要があります（「[既存のシステムパスワードの取り消しと変更](#)」を参照）。設定したパスワードを忘れた場合、システムカバーを取り外し、ジャンパの設定を変更してシステムパスワード機能を一時的に解除する必要があります（「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照）。ただし、セットアップパスワードも同時に消去されるので注意してください。

 **注意:** システムパスワードを設定せずに作動中のシステムから離れたり、システムをロックせずに放置したりした場合には、第三者がジャンパ設定を変更し、システムパスワード機能を解除することができます。結果、誰でもハードドライブ内の情報にアクセスできるようになります。

システムパスワードの設定

システムパスワードを設定する前に、まずセットアップユーティリティを起動し、System Passwordオプションをチェックします。

システムパスワードが設定されている場合、System Passwordオプションに表示される設定はEnabledです。システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワード機能が解除されている場合は、その設定はDisabled by Jumperと表示されます。これらの設定のいずれかが表示されている場合は、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

システムパスワードが設定されていない場合で、システム基板上のパスワードジャンパが有効な位置（デフォルト）に設定されているときは、System PasswordオプションはNot Enabledと表示されます。このオプションがNot Enabledに設定されている場合にのみ、以下の手順でシステムパスワードを設定することができます。

- 1 Password StatusオプションがUnlockedに設定されていることを確認します。
- 2 System Passwordをハイライト表示させてから、左右矢印キーを押します。
- 3 新しいシステムパスワードを入力します。

パスワードには7文字まで使用できます。

それぞれの文字キー（または空白としてのスペースバー）を押すごとに「*」が表示されます。

パスワードの設定操作では、キーボード上の位置でキーが認識され、大文字と小文字は区別されません。たとえば、パスワード設定時に M を入力しても、M と m の両方が正しい文字として認識されます。無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、スピーカ

一からビーブ音が鳴ります。入力した文字を訂正する場合は、<Backspace>または左矢印キーを押します。

❏ **メモ:** システムパスワードの入力を途中で中止したい場合、<Tab>または<Shift> <Tab>を押して別のフィールドに移動するか、手順5を終了する前に<Esc>を押します。

4. <Enter>を押します。

新しく設定したシステムパスワードが7文字未満の場合は、残りの部分には「*」が挿入されます。オプション名がVerify Passwordに変わり、その後ろに7文字分の空のフィールドが現れます。

5. パスワードを確認するために、もう一度パスワードを入力して<Enter>を押します。

パスワード設定はEnabledに変わります。これで、システムパスワードが設定されました。セットアップユーティリティを終了して、システムを使用することができます。ただし、リセットボタンを押すか、電源を入れ直してシステムを再起動しないと、パスワード保護機能は有効になりません。

システムパスワードの使い方

電源を入れるか、または<Ctrl><Alt>を押してシステムを再起動した場合、Password StatusオプションがUnlockedに設定されていると、以下のプロンプトが表示されます。

```
Type in the password and... -- press <ENTER> to leave password security enabled. -- press
<CTRL><ENTER> to disable password security. Enter password:
(パスワードを入力し... -- <ENTER>を押すと、パスワードセキュリティは有効なままです。 -- <CTRL><ENTER>を押すと、パスワードセキュリティが無効になります。パスワードを入力してください。)
```

Password StatusオプションがLockedに設定されている場合、次のプロンプトが表示されます。

```
Type the password and press <Enter>.
(パスワードを入力し、<ENTER>を押してください。)
```

正しいシステムパスワードを入力して<Enter>を押すと、システムが起動し、キーボードやマウスを使用して通常通りにシステムを操作できます。

❏ **メモ:** セットアップパスワードが設定されている場合(「[セットアップパスワード機能の使い方](#)」を参照)、システムはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
```

```
Enter password:
```

2回目に誤ったシステムパスワードまたは不完全なシステムパスワードを入力すると、同じメッセージが表示されます。

システムパスワードを3回間違えると、それ以降は以下のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
Number of unsuccessful password attempts: 3
System halted! Must power down.
```

適切なシステムパスワードを入力するために試みた不成功の回数によって、認証されていないユーザーがシステムにアクセスしようとしていることがわかります。

システムの電源を入れ直した後も、再び誤ったシステムパスワード、または不完全なシステムパスワードを入力する度に、上記のメッセージが表示されます。

❏ **メモ:** 無許可の変更に対してシステムの保護を強化するために、System PasswordおよびSetup Passwordと併せてPassword Statusオプションを使用することができます。

既存のシステムパスワードの取り消しと変更

1. <F2>を押して、セットアップユーティリティを起動します。
2. System Security画面領域を選択して、Password StatusオプションがUnlockedに設定されていることを確認します。
3. システムを再起動して、システムパスワードを要求するプロンプトを表示させます。
4. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
5. <Enter>を押して通常の操作を続ける代わりに、<Ctrl><Enter>を押して現在のシステムパスワードを無効にします。
6. セットアップユーティリティのSystem PasswordオプションにNot Enabledと表示されていることを確認します。

System PasswordオプションにNot Enabledが表示されると、システムパスワードが取り消されたことを意味します。新しいパスワードを設定する場合は、手順6に進みます。System PasswordオプションにNot Enabledが表示されていない場合は、<Alt>を押してシステムを再起動し、手順4~6を繰り返します。

7. 新しいパスワードを設定するには、[システムパスワードの設定](#)の手順に従ってください。

セットアップパスワード機能の使い方

ご使用のシステムは、出荷時にはセットアップパスワードが設定されていません。システムのセキュリティが必要な場合は、必ずセットアップパスワード保護機能を使用してください。

セットアップユーティリティを使用すると、いつでもセットアップパスワードを設定できます。セットアップパスワードを設定したら、そのパスワードを知っているユーザーでなければ、セットアップユーティリティの全機能を使用することはできません。

現在のセットアップパスワードを変更するには、セットアップパスワードを知っておく必要があります（[既存のセットアップパスワードの取り消しと変更](#)を参照）。設定したセットアップパスワードを忘れると、訓練を受けたサービス技術者がコンピュータカバーを取り外し、パスワードジャンパの設定を変更してパスワードを無効にしてから、現在のパスワードを消去するまで、システムを操作したり、セットアップユーティリティの設定を変更できません。この手順は、『インストール&トラブルシューティング』の付録Aに記載されています。

セットアップパスワードの設定

セットアップパスワードは、Setup PasswordオプションがNot Enabledに設定されている場合にのみ、設定（または変更）できます。セットアップパスワードを設定するには、Setup Passwordオプションをハイライト表示して、左右矢印キーを押します。パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字を指定すると警告のビープ音がなります。

- **メモ:** セットアップパスワードとシステムパスワードは同じでもかまいません。それら2つのパスワードが異なる場合でも、セットアップパスワードをシステムパスワードの代わりに使用することができます。ただし、システムパスワードは、セットアップパスワードの代わりに使用することができません。

パスワードの確認が終わると、Setup PasswordオプションはEnabledに変わります。これ以降は、セットアップユーティリティを起動する際に、セットアップパスワードの入力を求められます。

Setup Passwordオプションへの変更はただちに有効になります（再起動は必要ありません）。

セットアップパスワードが有効な場合の操作

Setup PasswordがEnabledに設定されている場合、正しいセットアップパスワードを入力しないと、ほとんどのセットアップオプションを変更できません。セットアップユーティリティを起動すると、プログラムプロンプトが表示され、パスワードを入力するように求められます。

3回までの入力で正しいパスワードを入力しないと、セットアップ画面は表示されますが、以下の例を除いて変更することはできません。

- 1 Date、Time、Keyboard、Num Lock、およびSpeakerオプションは変更可能です。
- 1 System Passwordが有効でなく、Password Statusオプションを使ってロックされていない場合、システムパスワードを設定できます（ただし、既存のシステムパスワードを無効にしたり変更したりすることはできません）。

- **メモ:** システムパスワードを認証されていない変更から保護するために、Setup Passwordと併せてPassword Statusオプションを使用することができます。

既存のセットアップパスワードの取り消しと変更

既存のセットアップパスワードを取り消しまたは変更するには、以下の手順を実行します。

1. セットアップユーティリティを起動し、System Security画面のオプションを選択します。
2. Setup Passwordオプションをハイライト表示させ、左右矢印キーを押して、現在のセットアップパスワードを取り消します。
設定はNot Enabledに変わります。
3. 新しいセットアップパスワードを設定したい場合は、[セットアップパスワードの設定](#)の手順を実行します。

パスワードを忘れたとき

システムまたはセットアップパスワードを忘れると、訓練を受けたサービス技術者がシステムシャーシを開け、パスワードジャンパの設定を変更してパスワードを無効にしてから、現在のパスワードを消去するまで、システムを操作したり、セットアップユーティリティの設定を変更できません。この手順は、『インストール&トラブルシューティング』の付録Aに記載されています。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

用語集

Dell™ PowerEdge™ 500SC システム ユーザーズガイド

次のリストでは、Dell™のユーザーズガイドで使用される技術用語、略語の意味を示します。

A

ampere(アンペア)

AC

alternating current(交流)

BIOS

basic input/output system(基本入出力システム)。システムのBIOSは、フラッシュメモリ チップに格納された複数のプログラムからなります。BIOSは、下記の事項を制御します。

- 1 キーボードやビデオアダプタなど、マイクロプロセッサと周辺機器との間のコミュニケーション。
- 1 システムメッセージなどの付属機能

bps

bits per second(1秒あたりのビット数)

BTU

British Thermal Unit(英式熱量単位)

C

Celsius(摂氏)

CD-ROM

Compact Disc Read-Only Memory(コンパクトディスク読み取り専用記憶装置)。CD-ROMドライブでは光学テクノロジーを使って、CDからデータを読み取ります。コンパクトディスクは読み取り専用のストレージです。通常のCD-ROMドライブでは、新しいデータをCDに書き込むことはできません。

COM n

システムの第1シリアルポートから第4シリアルポートに対応するデバイス名は、COM1、COM2、COM3およびCOM4です。COM1およびCOM3のデフォルト割り込みはIRQ4、そしてCOM2およびCOM4のデフォルト割り込みはIRQ3です。したがって、シリアルデバイスを実行するソフトウェアを設定するときには、割り込みのコンフリクトが発生しないように注意する必要があります。

cpi

characters per inch(1インチあたりの文字数)

CPU

Central Processing Unit(中央処理装置)。マイクロプロセッサを参照してください。

dB

decibel(デシベル)

dBa

adjusted decibel(補正デシベル)

DC

Direct Current(直流)

DIMM

Dual In-line Memory Module(デュアルインラインメモリモジュール)。DRAMチップを組み込んだ小型回路基板で、システム基板に接続されます。

DIN

Deutsche Industrie Norm(ドイツ工業品標準規格)

DIP

Dual In-line Package(デュアルインラインパッケージ)。通常、システム基板や拡張カードなどの回路ボードには、その回路ボードを設定するためのDIPスイッチがあります。DIPスイッチはON位置とOFF位置を持つ切り替えスイッチです。

DMA

Direct Memory Access(ダイレクトメモリアクセス)。DMAチャンネルを使うと、RAMとデバイス間でのデータ転送がマイクロプロセッサを介さずにおこなえるようになります。

DMI

Desktop Management Interface(デスクトップ管理インタフェース)。DMIは、システムのソフトウェアとハードウェアの管理を可能にします。DMIは、オペレーティングシステム、メモリ、周辺機器、拡張カード、および管理タグなどのシステムコンポーネントに関する情報を修正します。システムコンポーネントに関する情報は、MIFファイルとして、またはDellインスペクタプログラムによって表示されます。

DPMS

Display Power Management Signaling(ディスプレイ消費電力管理信号)。DPMSはVESA®(Video Electronics Standards Association)によって制定された規格で、モニタの節電機能を起動するためにビデオコントローラから送信されるハードウェア信号を定義します。DPMS準拠のモニタは、システムのビデオコントローラから特定の信号を受信して電源管理の状態になるように設計されています。

DRAC

Dell OpenManage Remote Assistant Card

DRAM

Dynamic Random-Access Memory(ダイナミックランダムアクセスメモリ)。通常、システムのRAMはDRAMチップだけから構成されます。DRAMチップは電荷を長くは保持できないため、システムの各DRAMマイクロプロセッサは定期的によりフレッシュされます。

DTE

Data Terminal Equipment(データ端末装置)。システムなど、ケーブルや通信回線によってデジタル形式でデータを送信できる装置のことです。DTEは、モデムなどのデータ通信回線(DCE)を介して、ケーブルや通信回線に接続します。

ECC

Error Checking and Correction(エラーチェックおよび訂正)

ECP

Extended Capabilities Port(拡張機能ポート)

EEPROM

Electrically Erasable Programmable Read-Only Memory(電氣的に消去/書き込み可能なROM)

EIDE

enhanced integrated drive electronics。EIDEデバイスは、標準のIDEデバイスに、次の1つまたは複数の機能が加わります。

- 1 最大16 MB/秒のデータ転送率
- 1 CD-ROMドライブやテープドライブなどのハードディスクドライブ以外のドライブもサポート
- 1 528 MB以上の容量のハードディスクドライブをサポート
- 1 それぞれ2つまでのデバイスが装着されたコントローラを、2つまでサポート

EISA

Extended Industry-Standard Architecture(32ビット拡張バス規格である拡張業界標準アーキテクチャ)。EISAシステムの拡張カードコネクタは、8ビットまたは16ビットのISA拡張カードとの互換性もあります。

設定のコンフリクトを回避するために、EISA拡張カードを取り付けるときにはEISAコンフィギュレーションユーティリティを使用してください。このユーティリティを使用すると、カードを取り付ける拡張スロットを指定できるほか、カードに必要なシステムリソースに関する情報をEISAコンフィギュレーションファイルから得ることができます。

EMC

Electromagnetic Compatibility(電磁環境両立)

EMI

ElectroMagnetic Interference(電磁波障害)

EMM

expanded memory manager(EMSメモリマネージャ)。Intel 386以上のマイクロプロセッサを持つシステム上で、拡張メモリを使用してEMSメモリをエミュ

レートするユーティリティ。

EMS

Expanded Memory Specification(EMSメモリ仕様)

EPROM

Erasable Programmable Read-Only Memory(消去可能なプログラマブル読み取り専用メモリ)

ESD

Electrostatic Discharge(静電気放出)

EMSメモリ

1MB以上のRAMにアクセスする技法。システムのEMSメモリを有効にするには、EMMを使用しなければなりません。EMSメモリを使用できる(またはEMSメモリが必要な)ソフトウェアを実行する場合のみ、システムをEMMに設定する必要があります。

FAT

File Allocation Table(ファイル割り当てテーブル)。FATはファイル保存記録を管理するために、MS-DOSで使用されるファイルシステム構造です。

FCC

Federal Communications Commission(連邦通信委員会)

ft

feet(フィート)

FTP

File Transfer Protocol(ファイル転送プロトコル)

g

gram(グラム)

G

Gravities(重力)

GB

GigaByte(ギガバイト) 1GBは1,024MB(1,073,741,824バイト)です。

GUI

graphical user interface(グラフィックユーザーインタフェイス)

h

hexadecimal(16進法)。システムのRAMのアドレスやI/Oメモリのデバイス用アドレスを指定するために使われる、16を基数とする記数法です。例えば、0から16までの10進数は16進法では、0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、10のように表されます。テキスト内では、数字の後にhを付けます。

HMA

high memory area(ハイメモリ領域)。1MB以上のエクステンドメモリの最初の64KB。XMSを管理するメモリマネージャは、コンベンショナルメモリを拡張したHMAを作成します。上位メモリ領域、およびXMMも参照。

HPFS

OS/2 およびWindows NTオペレーティングシステムの、高性能ファイルシステム(High Performance File System)。

Hz

Hertz(ヘルツ)

ICES

Interface-Causing Equipment Standard(カナダ)

ICU

ISA Configuration Utility(ISA設定ユーティリティ)

I/O

input/output(入出力)。キーボードは入力デバイスであり、プリンタは出力デバイスです。一般に、I/O動作はコンピュータ計算とは区別することができます。例えば、プログラムがドキュメントをプリンタに送るときが出力動作、用語のリストをソートするときがコンピュータ計算です。

ID

identification(識別)

IPX

internetwork packet exchange(ネットワーク間パケット交換)

IRQ

Interrupt ReQuest(割り込み要求)。周辺機器からデータを送受信するときの信号は、IRQを通してマイクロプロセッサに送られます。デバイスコネクタは、IRQ番号を割り当てられなければなりません。例えば、このシステムの第1シリアルポート(COM1)には、デフォルトでIRQ4が割り当てられています。2つのデバイスに同じIRQ番号を割り当てることはできますが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ISA

Industry-Standard Architecture(業界標準アーキテクチャ)。16ビット拡張バスの形式。ISAシステムの拡張カードコネクタは、8ビットのISA拡張カードとの互換性もあります。

ITE

information technology equipment(情報技術設備)

K

kilo-(キロ)、1,000を表します。

KB

kilobyte(キロバイト)。1キロバイトは、1,024バイトです。

KB/秒

1秒あたりのキロバイト数

Kbit(s)

kilobit(キロビット)。1キロビットは1024ビットです。

Kbit(s)/秒

1秒あたりのキロビット数の略。

kg

kilogram(キログラム)。1キログラムは、1,000グラムです。

kHz

kiloHertz(キロヘルツ)。1キロヘルツは、1,000ヘルツです。

LAN

Local Area Network(ローカルエリアネットワーク)。通常、LANシステムは、すべての装置がLAN専用のワイヤによって接続されている近隣の建物内だけで使われます。

lb

Pound(ポンド)

LED

light-emitting diode(発光ダイオード)。LEDは、電流が通過すると点灯する電子装置です。

LPTn

システム上にある1~3番目のパラレルポートのデバイス名は、LPT1、LPT2、LPT3です。

m

メートル

mA

milliampere (ミリアンペア)

mA h

milliampere-hour (ミリアンペア時)

Mb

megabit (メガビット)

MB

megabyte (メガバイト)。1メガバイトは、1,024キロバイトまたは1,048,576バイトです。ただし、ハードディスクドライブの容量を表す場合は、通常、概数にして100万バイトとします。

MB/秒

megabytes per second (1秒あたりのメガバイト数)

Mbps

megabits per second (1秒あたりのメガビット数)

MBR

master boot record (マスタブートレコード)

MHz

megahertz (メガヘルツ)

MIDI

musical instrument digital interface (音響機器デジタルインタフェース)

MIF

management information format (管理情報フォーマット)。MIFファイルには、コンポーネント計装への、情報、ステータス、およびリンクが含まれていません。MIFファイルは、DMIサービスレイヤーによって、MIFデータベースにインストールされます。MIFの内容は、DTMF作業委員会によって定義され、MIF定義文書の形式で出版されています。このマニュアルは、DMI管理可能コンポーネントに関するグループや属性について定義しています。

mm

millimeter (ミリメートル)

MPEG

Motion Picture Experts Group。MPEGはデジタルビデオファイルフォーマットです。

ms

millisecond (ミリ秒)

MS-DOS

Microsoft Disk Operating System (マイクロソフトディスクオペレーティングシステム)

MTBF

mean time between failures (平均故障間隔)

mV

millivolt (ミリボルト)

NDIS

Network Driver Interface Specification (ネットワークドライバインタフェース仕様)

NIC

network interface controller (ネットワークインタフェースコントローラ)

NMI

NonMaskable Interrupt (マスク不能型割り込み)。パリティエラーなどのハードウェアエラーが起きた場合に、マイクロプロセッサに知らせるために、NMIを送ります。

ns

nanosecond(ナノ秒)。10億分の1秒。

NTFS

NT File System(NTファイルシステム)。Windows NTのオペレーティングシステムのオプションです。

NVRAM

nonvolatile random-access memory(不揮発性ランダムアクセスメモリ)。システムの電源を切っても、内容は失われません。NVRAMは、日付、時刻、システム設定情報の保持に使用されます。

PCI

Peripheral Component Interconnect(周辺機器相互接続)。Intel Corporationによって開発されたバスの規格です。

PGA

pin grid array(ピングリッドアレイ)。マイクロプロセッサチップの取り外しが可能なマイクロプロセッサソケット。

POST

Power-On Self-Test(電源投入時の自己診断)。システムの電源が入ると、オペレーティングシステムをロードする前に、POSTがRAM、ディスクドライブ、キーボードなどのデバイスをテストします。

ppm

pages per minute(1分あたりのページ数)

PS/2

Personal System/2

RAM

Random-Access Memory(ランダムアクセスメモリ)。プログラムの命令やデータを保存するシステムの主要な一次記憶領域。RAM内部の各領域は、メモリアドレスと呼ばれる番号によって識別されます。RAMに保存されている情報は、システムの電源が切れると失われます。

readmeファイル

ソフトウェアパッケージまたはハードウェア製品に付属するテキストファイル。ソフトウェアまたはハードウェアのマニュアルの補助およびアップグレード情報が記載されています。通常、readmeファイルには、マニュアルに記載されていないインストール情報、新製品についての説明、あるいは訂正文が含まれます。また、ソフトウェアまたはハードウェアを使用する場合に必要な、既知の問題やその他の事項が記載されています。

RFI

Radio Frequency Interference(ラジオ周波数障害)

RGB

red/green/blue(赤/緑/青)

ROM

Read-Only Memory(読み取り専用メモリ)。システムの動作に必要なプログラムのいくつかはROMコードの中に保存されています。RAMとは異なり、ROMチップはシステムの電源が切れた後もその内容を保持します。ROM内にあるコードには、システムの起動手順を開始するプログラムやPOSTなどがあります。

rpm

revolutions per minute(1分あたりの回転数)

RTC

Real-Time Clock(実時刻時計)。システム内部にあるバッテリーで動く時計回路で、システムの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

SCSI

small computer system interface(小型コンピュータシステムインタフェース)。通常のポートよりも速いデータ転送レートを持つI/Oバスインタフェース。1つのSCSIインタフェースに最大7つのデバイス(いくつかの新しいSCSIタイプは15)を接続できます。

SDMS

SCSI device management system(SCSIデバイス管理システム)。

sec

second(秒)

SEC

single-edge connector cartridge(単一エッジコネクタカートリッジ)

SIMM

single in-line memory module(シングルインラインメモリモジュール)。DRAMチップを組み込んだ小型回路基板で、システム基板に接続されます。

SMART

Self-Monitoring Analysis Reporting Technology。システムBIOSにエラーや障害があった場合に、ハードディスクドライブが報告し、画面にエラーメッセージを表示するための技術です。この技術を利用するには、SMART準拠のハードディスクドライブおよびシステムBIOSのサポートが必要です。

SNMP

Simple Network Management Protocol。SNMPIによって、ネットワーク管理者はリモートでワークステーションを監視したり管理することができます。

SRAM

Static Random-Access Memory(スタティックRAM)。SRAMチップは、リフレッシュが必要ないため、DRAMチップよりも数倍高速です。

SVGA

Super Video Graphics Array(スーパービデオグラフィックスアレイ)。VGAとSVGAは、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、ディスプレイが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。また、プログラムで表示できるカラーの数は、モニターやビデオドライバの機能と、システムにインストールされたビデオメモリ容量に応じて異なります。

TSR

terminate-and-stay-resident(メモリ常駐)。TSRプログラムは、「バックグラウンド」で実行されます。ほとんどのTSRプログラムには特定のキーコンビネーション(「ホットキー」ともいう)が組み込まれており、別のプログラムを実行している間にTSRプログラムのインタフェースを起動することができます。TSRプログラムを使い終わったら、元のアプリケーションプログラムに戻り、TSRプログラムをメモリに常駐させて後で再使用することができます。

TSRプログラムによってメモリコンフリクトが発生することがあります。トラブルシューティングをおこなうときは、TSRプログラムを起動しない状態でシステムを再起動して、このようなメモリコンフリクトの可能性を除外してください。

UL

Underwriters Laboratories(保険業者研究所)

UMB

Upper Memory Block(アッパーメモリブロック)

UPS

Uninterruptible Power Supply(無停電電源供給装置)。電氣的な障害が起きた場合に、システムの電源が切れないようにするためのバッテリー装置。

USB

Universal Serial Bus。USBコネクタによって、マウス、キーボード、プリンタ、スピーカーなど、USBに準拠した複数のデバイスに対して、単独結合ポイントを使えるようになります。USBデバイスは、システムが起動中でも接続したり、接続を解除したりできます。

UTP

unshielded twisted pair(シールド無しツイストペア)

V

Volt(ボルト)

VAC

volt alternating current(ボルト交流)

VCCI

Voluntary Control Council for Interference(電波障害自主規制協議会)

VCR

video cassette recorder(ビデオカセットレコーダ)

VDC

volt direct current (ボルト直流)

VESA

Video Electronics Standards Association(ビデオエレクトロニクス規格団体)

VGA

Video Graphics Array(ビデオグラフィックス配列)。VGAとSVGAは、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、ディスプレイが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。また、プログラムで表示できるカラーの数は、モニターやビデオドライバの機能と、ビデオアダプタ用にインストールされたビデオメモリ容量に応じて異なります。

VGA対応コネクタ

VGAビデオアダプタが内蔵された一部のシステム上では、VGA対応コネクタを使用すると、ビデオアクセラレータなどの拡張アダプタをシステムに追加することができます。VGA対応コネクタは、VGAパススルーコネクタとも呼ばれます。

VRAM

video random-access memory(ビデオランダムアクセスメモリ)。ビデオアダプタの中には、VRAMチップ(またはVRAMとDRAMの組み合わせ)を使用してビデオ性能の向上を図っているものがあります。VRAMはデュアルポートであるため、ビデオアダプタを通じて、画面の更新と新しい画像データの受信を同時におこなうことができます。

W

Watt(ワット)

WH

watt-hour(s)(ワット時)

XMM

extended memory manager(拡張メモリマネージャ)。アプリケーションプログラムやオペレーティングシステムが、XMSIに沿ってエクステンドメモリを使用できるようにするユーティリティ。

XMS

eXtended Memory Specification(拡張メモリ仕様)

ZIF

zero insertion force(ゼロ挿入圧力)。一部のシステムでは、ZIFソケットやZIFコネクタを使用して、デバイス(マイクロプロセッサチップなど)の取り付けや取り外しをおこなうときにデバイスに圧力がかからないようにします。

アダプタカード

コンピュータのシステム基板上の拡張カードコネクタに差し込む拡張カード。アダプタカードは、拡張バスと周辺デバイス間のインタフェイスを提供することによって、システムに特殊な機能を追加します。アダプタカードの例として、ネットワークカード、サウンドカード、SCSIアダプタなどがあります。

アプリケーションプログラム

ユーザーが特定のタスクまたは一連のタスクを実行するのを助けるためのソフトウェア(表計算プログラムやワードプロセッサなど)。アプリケーションプログラムは、オペレーティングシステムから実行されます。

インターレース

画面上の代替水平線だけを更新してビデオ解像度を増加させる技法。インターレースを使用すると画面のちらつきが目立つ場合があるため、ユーザーにはノンインターレースのビデオアダプタ解像度が好まれています。

ウイルス

システムに損害を与えるように設計された自己起動型プログラム。ウイルスプログラムは、ハードディスクドライブに格納されたファイルを破壊したり、システムやネットワークのメモリが一杯になるまで自己増殖したりすることが知られています。

一般に、ウイルスプログラムは「感染した」ディスクから自分自身をハードディスクドライブにコピーすることによって、数多くのシステムに感染していきます。ウイルスからシステムを保護するために、次のような対策を講じてください。

- 1 システムのハードディスクドライブに対して定期的にウイルス検査ユーティリティを実行します。
- 1 ディスク(市販のソフトウェアも含みます)を使用する前に、そのディスクに対して必ずウイルス検査ユーティリティを実行します。

カードエッジコネクタ

拡張カードの底部にある金属接触部分で、拡張カードコネクタを差し込みます。

外部キャッシュメモリ

SRAMチップを使用するRAMキャッシュ。SRAMチップはDRAMチップよりも数倍高速であるため、マイクロプロセッサによるデータや命令の取り出しは、RAMを使用する場合よりも外部キャッシュメモリを使用した方が高速になります。

拡張バス

システムには、拡張バスが装着されています。この拡張バスによって、ネットワークカードや内蔵モデムなどの周辺機器のコントローラとマイクロプロセッサがコミュニケーションをおこなうことができます。

拡張カードコネクタ

拡張カードを差し込むシステムのシステム基板またはライザボード上のコネクタ。

拡張メモリ

1MB以上のRAM。拡張メモリを使用できるほとんどのソフトウェア (Windowsオペレーティングシステムなど) では、拡張メモリをXMMで制御する必要があります。

書き込み保護

読み取り専用ファイルは、「書き込み防止されている」と言われます。3.5インチのディスクットを書き込み防止にするには、ディスクットの書き込み防止タブをスライドさせて開いた位置にするか、セットアップユーティリティで書き込み防止機能を設定します。

画素 (ピクセル)

ビデオ画面上の単一の点。ピクセルは画像を表示するために行列形式に並べられます。たとえば、640x480というビデオ解像度は、横方向に640個のピクセル、縦方向に480個のピクセルが並んだ行列として表されます。

仮想メモリ

ハードディスクドライブを使用して、アドレッシング可能なRAMを増加させる技法。たとえば、16MBのRAMを装備したシステムのハードディスクドライブ上で16MBの仮想メモリをセットアップした場合、オペレーティングシステムでは、32MBの物理RAMが存在する場合と同様の方法でシステムメモリが管理されます。

管理タグコード

セキュリティまたはトラッキング目的のために、通常、システム管理者がシステムに割り当てる個々のコード。

起動ディスクット

システムをディスクットから起動することができます。起動ディスクットを作成するには、ディスクットをドライブに挿入して、コマンドラインプロンプトにsys a:と入力し、<Enter>を押します。システムがハードディスクドライブから起動しない場合、この起動ディスクットを使用してください。

起動ルーチン

システムを起動すると、すべてのメモリのクリア、デバイスの初期化、およびオペレーティングシステムのロードがおこなわれます。オペレーティングシステムが正常に応答しない場合は、<Ctrl><Alt>キーを押してシステムを再起動できます (ウォームブートともいいます)。それでもオペレーティングシステムが応答しない場合は、リセットボタンを押すか、システムの電源を一度切つてから入れ直すことによって、システムを再起動 (コールドブート) しなければなりません。

キーの組み合わせ

コマンドを送るために同時に押す複数のキー。たとえば、<Ctrl><Alt>のキーの組み合わせを押すと、システムを再起動できます。

キャッシュ

データを高速検索するための、データまたは命令のコピーを保持する高速記憶領域。たとえば、システムのBIOSでは高速RAMにROMコードがキャッシュ (保持) されます。あるいは、ディスクキャッシュユーティリティでは、頻繁にアクセスされる情報がシステムのディスクドライブからRAMに保持されます。キャッシュ内にあるデータについて、プログラムからディスクドライブに対して取り出し要求が発行されると、ディスクキャッシュユーティリティはRAMからデータを取り出すので、ディスクドライブから取り出す場合よりも検索時間が短縮されます。

グラフィックコプロセッサ

コプロセッサを参照。

グラフィックモード

「x個の横ピクセル × y個の縦ピクセル × z種類のカラー」で定義されるビデオモード。

グループ

(DMIに関連した用語として) グループは、管理可能コンポーネントについての、一般情報または属性を定義するデータ構造です。

コプロセッサ

システムのマイクロプロセッサを特定の処理タスクから解放するチップ。例えば、数値演算コプロセッサは数値演算処理を制御します。グラフィックコプロセッサはビデオレンダリングを処理します。例えば、Intel® Pentium® マイクロプロセッサには、内蔵数値演算コプロセッサが組込まれています。

アクティブディレクトリ以外の場所に保管されているプログラムを実行します。

コントローラ

マイクロプロセッサとメモリの間、またはマイクロプロセッサと周辺機器（ディスクドライブやキーボードなど）との間のデータ転送を制御するチップ。

コントロールパネル

電源スイッチ、ハードディスクドライブインジケータ、電源インジケータなどのインジケータやボタンを含むシステムの一部。

コンベンショナルメモリ

RAMの最初の640KB。コンベンショナルメモリすべてのシステムに存在します。MS-DOS®プログラムは特別に設計されていない限り、コンベンショナルメモリ内でのみ実行されます。

コンポーネント

DMIに関連した、管理可能なコンポーネントとは、オペレーティングシステム、コンピュータシステム、拡張カード、または周辺機器であり、DMIと互換可能です。各コンポーネントは、グループおよび属性を構成し、そのコンポーネントに関連したものとして定義されます。

サービスタグ番号

テクニカルサポートを受けるためにDellにお電話をいただいた際に、システムを識別するためのシステムに付いているバーコードラベル。

システム基板

主要回路基板であるシステム基板には、一般に下記のような、システムを構成するために必要な部品のほとんどが取り付けられています。

- 1 マイクロプロセッサ
- 1 RAM
- 1 キーボードなどの標準デバイスのコントローラ
- 1 各種のROMチップ

システム基板は、マザーボード、ロジックボードと同義語です。

システム診断プログラム

Dell システム用の総合診断テストセット。診断プログラムを使用するには、『システム診断プログラムディスクセット』からシステムを起動する必要があります。

システム設定情報

メモリに保存されたデータで、取り付けられているハードウェアの種類およびシステムの動作設定が記載されています。

システムディスク

起動ディスクと同義語です。

システムメモリ

RAMと同義語です。

ジャンパ

ジャンパは回路基板上の小さなブロックで、2本以上のピンが出ています。ワイヤを格納しているプラスチック製プラグが、ピンにかぶせられています。ワイヤは、ピン同士を接続して回路を形成します。ジャンパを使用すれば、プリント基板の回路構成を簡単に変更できます。

周辺機器

システムに接続される内蔵装置または外付け装置（プリンタ、ディスクドライブ、キーボードなど）。

シリアルポート

モデムをシステムに接続するためのもっとも多く使用されるI/Oポート。システムのシリアルポートには、通常9ピンのコネクタが使われます。

シンタクス(構文法)

システムによって正しく認識されるように、コマンドや命令を入力する方法を指示する規則。

スイッチ

システム基板上で、スイッチはシステムのさまざまな回路や機能を制御します。これらのスイッチはDIPスイッチとして知られており、通常、2つまたはそれ以上の組でプラスチックケース内にパッケージされています。2つの一般的なDIPスイッチがシステム基板に使用されています。スライドスイッチとロックスイッチです。スイッチの名前は、スイッチの設定（オンとオフ）がどのように変更されるかからきてきます。

数値演算コプロセッサ

コプロセッサを参照。

セットアップユーティリティ

BIOSベースのプログラム。システムのハードウェアを構成したり、パスワードによる保護や電源管理などの機能を設定することによって、システムの動作をカスタマイズすることができます。セットアップユーティリティのオプションの中には、システムを再起動しない(またはシステムによっては自動的に再起動)ハードウェア設定の変更が有効にならないものがあります。セットアップユーティリティはNVRAMに保存されるため、設定は再度変更しない限り有効に維持されます。

タイムアウト

省電力機能が起動されるまでのシステムのアイドル時間。

ディレクトリ

ディレクトリは、関連するファイルがディスク上で「逆ツリー」の階層構造になるようにしています。各ディスクには「ルート」ディレクトリがあります。たとえば、通常、C:\プロンプトはハードディスクドライブCのルートディレクトリに示すことを示します。ルートディレクトリから分岐する追加のディレクトリは、サブディレクトリと呼ばれます。サブディレクトリの下には、さらに別のディレクトリが枝状につながっている場合もあります。

テキストモード

x列 y 行の文字で定義されるビデオモード。

デバイスドライバ

オペレーティングシステムやその他のプログラムがプリンタなどの周辺機器と正しくインターフェイスできるようにするプログラム。ネットワークドライバなどの一部のデバイスドライバは(device=ステートメント)、config.sysファイルからロードするか、(通常はautoexec.batファイルから)メモリ常駐プログラムとしてロードする必要があります。その他のドライバ(ビデオドライバなどは、特定のプログラムを実行する際にロードしなければいけません。

ドライブタイプ番号

システムでは、複数の種類のハードディスクドライブが認識されます。個々のドライブにはドライブタイプ番号が割り当てられ、各ドライブタイプ番号はNVRAMに保存されます。システムのセットアップユーティリティで指定されたハードディスクドライブは、システムに取り付けられた実際のドライブと一致しなければなりません。セットアップユーティリティでは、NVRAMに保存されたドライブタイプ一覧に記載されていないドライブの物理パラメータ(論理シリンダ、論理ヘッド、シリンダ番号、バックごとの論理セクタ)を指定することもできます。

内蔵マイクロプロセッサキャッシュ

マイクロプロセッサに内蔵された命令キャッシュとデータキャッシュ。Intel Pentiumマイクロプロセッサには16KBの内蔵キャッシュがあり、8KBの読み取り専用命令キャッシュおよび8KBの読み書き可能データキャッシュとしてセットアップされています。

ノンインターレース

画面上の水平線を逐次リフレッシュして、画面のちらつきを抑える技法。

パーティション

fdiskコマンドを使用すると、パーティションと呼ばれる複数の物理セクションにハードディスクドライブを分割できます。それぞれのパーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

ハードディスクドライブをパーティションに分割した場合は、formatコマンドを使用して個々の論理ドライブをフォーマットする必要があります。

バイト

システムで使われる基本的なデータ単位。1バイトは8ビット。

バス

システムのコンポーネント間の情報経路。システムには、拡張バスが設置されています。この拡張バスによって、システムに接続されているすべての機器のコントローラとマイクロプロセッサがコミュニケーションをおこなうことができます。また、マイクロプロセッサとRAM間のコミュニケーションをおこなうために、アドレスバスとデータバスも装着されています。

バックアップ

プログラムまたはデータファイルのコピー。不測の事態に備えて、定期的にハードディスクドライブのバックアップを取ることをお勧めします。システムの設定を変更する前に、重要な起動ファイルをオペレーティングシステムからバックアップしてください。

バックアップバッテリー

バックアップバッテリーはシステムの電源が切られている間、システム設定、日付および時刻の情報をメモリの特別なセクション内に保存します。

パラメータ

プログラムに指定する値またはオプション。パラメータは、スイッチまたは引数と呼ばれることもあります。

パラレルポート

システムにプリンタを接続するときに、最も多く使われるI/Oポート。通常、システムの平行ポートには25穴のコネクタを使います。

ビーブコード

システムのスピーカーから流れるビーブ形式の診断メッセージ。例えば、1つ目のビーブ音、次に2つ目のビーブ音、そして3つの連続したビーブ音が聞こえた場合、ビーブコードは、1-1-3です。

ビット

システムが認識する情報の最小単位。

ビデオアダプタ

モニタと連携してシステムのビデオ機能を実現するための論理回路。ビデオアダプタが持つ機能の種類は、特定のモニタが持つ機能とは異なる場合があります。通常、ビデオアダプタには、一般的なアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムを、様々なビデオモードで表示するためのビデオドライバが付いています。

いくつかのシステムでは、システム基板にビデオアダプタが組み込まれています。また、拡張カードコネクタに差し込む数多くのビデオアダプタカードが利用できます。

ビデオアダプタには、システム基板のRAMから独立したメモリがしばしば組み込まれています。ビデオメモリの量と、アダプタに付いてくるビデオドライバによって、同時に表示できる色の数が決まります。高速のグラフィック描画を実現するために、ビデオアダプタには独自のコプロセッサが内蔵される場合もあります。

ビデオ解像度

たとえば、800 x 600というビデオ解像度は、横方向に640個のピクセル、縦方向に480個のピクセルが並んだ行列として表されます。特定の解像度でプログラムを表示するには、ディスプレイが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。

ビデオドライバ

グラフィックモードのアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムにおいて、希望の色数と選択された解像度で表示するためのプログラム。一部のプログラムには汎用的なソフトウェアパッケージが組み込まれています。ビデオアダプタに適合する追加のビデオドライバが必要になる場合もあります。

ビデオメモリ

ほとんどのVGAビデオアダプタとSVGAビデオアダプタには、システムのRAMとは別に、メモリチップが内蔵されています。取り付けられているビデオメモリの量は、主にプログラムが表示できる色数によって異なります(これは対応するビデオドライバとモニタの機能にもよります)。

ビデオモード

通常、ビデオアダプタは、複数のテキストモードおよびグラフィックモードをサポートしています。文字をベースにしたソフトウェアは、x列 x y行の文字数で表されるテキストモードで表示されます。グラフィックベースのソフトウェアは、「x個の横ピクセル x y個の縦ピクセル x z種類のカラー」で定義されるグラフィックモードで表示されます。

ヒートシンク

放熱のために役立つベグやリブが付いた金属板。ほとんどのマイクロプロセッサにはヒートシンクが組み込まれています。

フォーマット

ファイルを保存するためにハードディスクドライブやディスクを準備すること。無条件フォーマットをおこなうと、ディスクに格納された全データが消去されます。

プラグアンドプレイ

ハードウェアシステムをパーソナルシステムに容易に追加できるようにする、業界標準仕様。プラグアンドプレイは、自動インストールおよび構成、既存のハードウェアとの整合性、およびモバイルコンピューティング環境のダイナミックサポートを提供します。

フラッシュメモリ

システムに取り付けた状態で、ディスク内のユーティリティから再プログラムが可能なEEPROMチップの一種。ほとんどのEEPROMチップは特殊なプログラム用デバイスを使わなければ、書き込みできません。

プロテクトモード

80286以降のマイクロプロセッサによってサポートされる動作モード。プロテクトモードでは、オペレーティングシステムを通じて次のことが実現されます。

- 1 16MB(80286マイクロプロセッサの場合)~4GB(Intel386以降のマイクロプロセッサの場合)のメモリアドレススペース
- 1 マルチタスク
- 1 仮想メモリ(ハードディスクドライブを使用して、アドレッシング可能なメモリを増加させる技法)

Windows NT、OS/2、UNIX 32ビットオペレーティングシステムは、プロテクトモードで実行されます。MS-DOSはプロテクトモードで実行できません。ただし、MS-DOSから起動できる一部のプログラム(Windowsなど)は、システムをプロテクトモードに移行することができます。

ホストアダプタ

ホストアダプタによって、システムのバスと、周辺装置用のコントローラ間のコミュニケーションができます。(ハードディスクドライブコントローラサブシステムには、内蔵ホストアダプタ回路が組み込まれています。) SCSI拡張バスをシステムに追加するには、適切なホストアダプタを取り付ける必要があります。

マイクロプロセッサ

演算およびロジック機能の解釈と実行を制御する、システム内部のプライマリ計算チップ。あるマイクロプロセッサ用に書かれたソフトウェアを別のマイクロプロセッサで実行するには、ほとんどの場合ソフトウェアを新しく書き直さなければいけません。CPUはマイクロプロセッサの同義語です。

マウス

画面上のカーソルの動きをコントロールするポイントデバイス。マウスが使用できるソフトウェアでは、画面上に表示されているオブジェクトを指しながらマウスボタンを押すことによって、コマンドを実行できます。

マルチスキャンモニタ

複数のビデオ規格をサポートするモニタ。マルチスキャンモニタは、各種のビデオアダプタからの信号周波数レンジに合わせて調整できます。

メモリ

システムは、RAM、ROM、およびビデオメモリなどの異なる型のメモリを持っています。「メモリ」という言葉はRAMと同じ意味で使われることがあります。例えば、「16MBのメモリを持つシステム」という場合、16MBのRAMを持つシステムを指します。

メモリアドレス

システムのRAM内で16進法で表される特定の位置。

メモリマネジャー

コンベンショナルメモリ以外のメモリ(拡張メモリやEMSメモリなど)の実装を管理するユーティリティ。

メモリモジュール

DRAMチップを組み込んだ小型回路基板で、システム基板に接続されます。

モデム

電話線を通して、他のシステムとの通信を可能にするデバイス。

ユーティリティ

メモリ、ディスクドライブ、プリンタなどのシステム資源を管理するためのプログラム。

読み取り専用ファイル

読み取り専用ファイルとは、変更や消去が禁止されているファイルのことを言います。ファイルは、下記の場合に読み取り専用になります。

- 1 読み取り専用アトリビュートがOnになっている場合。
- 1 物理的に書き込みが禁止されているディスク、または書き込み禁止ドライブ内のディスク上にファイルが存在する場合。
- 1 ファイルがディレクトリの中のネットワーク上にあり、システム管理者が読み取り権だけを許可している場合。

リアルモード

80286以降のマイクロプロセッサによってサポートされる動作モード。リアルモードは、8086マイクロプロセッサのアーキテクチャをシミュレートする動作モードです。

リフレッシュレート

モニタがモニタ画面上でビデオ画像を再描写する速度。精密に言うと、リフレッシュレートは、Hzで計測される周波数で、スクリーンの行がリチャージされる割合です(垂直周波数と呼ばれる場合もあります)。リフレッシュレートが高いと、ビデオフリッカーが見えにくくなります。また、高いリフレッシュレートはノンインタレースです。

ローカルバス

ローカルバス拡張機能を持つシステムは特定の周辺機器(ビデオアダプタ回路など)が従来の拡張バスを持つシステムよりも高速に動作するよう設計されています。ローカルバスには、システムのプロセッサと同じ幅のデータバスおよび同じ速度で周辺装置を動作させるものもあります。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)



Dell™ PowerEdge™ 500SC システム ユーザーズガイド

[図1-1. システムの向き](#)

[図1-2. 正面パネルの機能](#)

[図1-3. 背面パネルの機能](#)

[図3-1. メインセットアップ画面](#)

[図B-1. I/Oポートおよびコネクタ](#)

[図B-2. シリアルコネクタのピン番号](#)

[図B-3. パラレルコネクタのピン番号](#)

[図B-4. キーボードコネクタのピン番号](#)

[図B-5. マウスコネクタのピン番号](#)

[図B-6. ビデオコネクタのピン番号](#)

[図B-7. USBコネクタのピン番号](#)

[図B-8. NICコネクタ](#)

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Dell™ PowerEdge™ 500SC システム ユーザーズガイド

[表2-1. ユーティリティパーティションのMain Menuオプション](#)

[表2-2. 管理タグコマンドラインオプション](#)

[表3-1. セットアップユーティリティナビゲーションキー](#)

[表A-1. 仕様](#)

[表B-1. シリアルコネクタのピン番号](#)

[表B-2. パラレルコネクタピン番号の割り当て](#)

[表B-3. キーボードコネクタのピン番号の割り当て](#)

[表B-4. マウスコネクタのピン番号の割り当て](#)

[表B-5. ビデオコネクタのピン番号の割り当て](#)

[表B-6. USBコネクタのピン番号の割り当て](#)

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Dell PowerEdge 500SC システム ユーザーズガイド

- [メモ、注意、警告、および危険](#)
-

メモ、注意、警告、および危険

- 📄 **メモ:** システムの操作上、知っておくと便利な情報が記載されています。
 - 🕒 **注意:** ハードウェアの破損またはデータの損失の可能性があることを示します。また、その問題を回避するための方法も示されています。
 - ⚠️ **警告:** 問題を回避しないと、軽～中程度のけがを負う危険性があることを示します。
 - 🔴 **危険:** 問題を回避しないと、死亡または重傷を負う危険性があることを示します。
-

[目次ページに戻る](#)